

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 7 日現在

機関番号：34320

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370073

研究課題名(和文)「チベット医学と仏教の生命論 『ユトク・ニンティク』の研究」

研究課題名(英文) The Image of "Life" in Tibetan Medicine and Buddhism-the study of "gYu thog snying thig"-

研究代表者

永澤 哲 (Nagasawa, Tetsu)

京都文教大学・総合社会学部・准教授

研究者番号：40388210

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本科研は、8世紀から現代にいたるまで、連綿として伝えられてきたチベット医学の宗教的側面について、医師の間で伝承されてきた『ユトク・ニンティク』の密教体系の哲学と実践を明らかにするものである。『ユトク・ニンティク』は、従来全く研究されてこなかったが、海外における現地調査、医師、高僧への聴き取り、文献研究により、その概要を明らかにすることができた。その内容については、11本の論文(英文2、和文9)、3冊の著書(英文1、和文2、何れも共著)、招待講演(英語2、日本語6)などをつうじて、学界および社会に発信した。このような急速な研究の進展は、科研費によって、初めて可能になったものである。深く感謝する。

研究成果の概要(英文)：The study of traditional Tibetan medicine, which developed within the religious and cultural context of Tibetan society, can be one of the clues to understand their religious culture, how the Tibetans have conceived of the human life. Our present research focused on the philosophy, theory and practice of "gYu thog snying thig", a system of meditation which has been exercised by the Tibetan doctors since 11th century. Based on field work, interviews and textual studies, we found that the theory and practice of "gYu thog snying thig" and the "Four Tantras" of Tibetan medicine are complementary, forming a very holistic view on the living human body; a complex of the physical, the energetic and the spiritual. Our study has demonstrated that this field of study will immensely contribute to the understanding of the Tibetan religious culture, and the nature of us humans.

研究分野：宗教学(チベット仏教)

キーワード：チベット 仏教 医学 生命 瞑想 密教 ニンティク

1. 研究開始当初の背景

チベット文化の抱いている生命イメージの深層に迫るには、密教の身体論と医学境にまたがる界領域の研究が不可欠である。にもかかわらず、国内外のいずれにおいても、この領域についての研究はまったく行われてこなかった。2011年度からの3年間、幸いにも科研費によって、チベット医学の臨床と密教の身体技法のうちヤントラヨガについて研究し、その成果については、国内外の学術誌および学会発表によって公表することができた。この過程で、チベット医学と仏教の境界領域を解明するためには、チベット人医師たちの間で伝承されてきた『ユトク・ニンテイク』の密教体系の研究が不可欠だと認識に達した。今回、幸いなことに2014年度から3年間、科研費を獲得し、『ユトク・ニンテイク』の研究を行うことができたが、本科研費の研究を開始した時点では、『ユトク・ニンテイク』をテーマとする先行研究は、F.Garrettによる1本の論文のみであり、ほぼ皆無という状態だった。

2. 研究の目的

アジアの伝統医学は、宗教的背景の中で発達し、人間の心と身体、生命、さらに環境の結びつきに対するホーリスティックな深い洞察を内包している。宗教と伝統医学にまたがる境界領域の研究は、人間の全体性の中における宗教性ないし霊性の意味について、伝統文化が抱いてきたイメージを明らかにするための重要な方法だといえる。とくに、チベット医学は、成立の歴史から仏教倫理、密教の生命論と深く結びついており、その生命・宗教観を理解するうえで重要である。チベットの生命観の深層の解明の一環として、12世紀からチベット人医師たちの間で『四部医典』と並行して伝承されてきた『ユトク・ニンテイク』の密教体系に焦点を絞り、理論、実践の両面から明らかにすることを、本研究の目的とした。

3. 研究の方法

本研究には、現地調査およびチベット語の文献研究の、二本の柱がある。医学、密教文献は、特殊な術語が多く、その解釈は、口頭で伝えられることが多い。また密教の瞑想法、儀礼、医学の臨床、治療技法は、その性格上、実践の現場における参与観察を必要とする。そのため、文献の蒐集、解読とともに、チベット人医師、高僧をインフォーマントとする聞き取り、現地調査を行った。

4. 研究成果

今回の研究は、インフォーマントとして予定していた高僧、医僧があいついで逝去されたため、インフォーマント、調査地を変更して実施したが、十分な成果を得ることができた。4回の海外現地調査、チベット医学および『ユトク・ニンテイク』の原典の文献研究を通じ

て、以下の点が新たに明らかになった。

『ユトク・ニンテイク』の中の医学的記述は、『四部医典』の知識を修行者用にまとめた簡易ヴァージョンであり、その要約のような意味をもつ。その一方で、この医学的記述については、『ユトク・ニンテイク』の修行者が、瞑想中の神秘体験にもとづいて大部の注釈書を書いており、その中には、『四部医典』には見られない内容が多数含まれていることが明らかになった。チベット医学については、従来、『四部医典』のみが研究の対象となってきた。しかし、実際に、現代のチベット医学の医師たちが共有している臨床知識の中には、この注釈書の内容が多数含まれており、『四部医典』と『ユトク・ニンテイク』の伝統がダイナミックに絡み合いながら、生成発展したものである。この点は、チベット医学の全体像の再検討につながる発見である。

『ユトク・ニンテイク』とほぼ同時代に成立した、チベットで最も高度な密教である「ゾクチェン・ニンテイク」のタントラ経典(『17タントラ』)と『四部医典』『ユトク・ニンテイク』のテキストの比較検討をつうじて、『17タントラ』には、『四部医典』や『ユトク・ニンテイク』と共通で、しかもインド医学には見られない、チベット医学特有の病気の分類が入り込んでいること、『四部医典』に大成されたチベット医学の理論が、『ユトク・ニンテイク』のみならず、それ以外の高度の密教と密接に絡み合いながら発達してきたことが明らかになった。以上の点は、従来まったく理解されておらず、8世紀から12世紀にかけてチベット仏教、医学の発達史を考えるうえで、きわめて重要な発見である。その概要については、2016年に行われた国際チベット学会において、発表した。今後、その内容を拡大し、国際学術誌に、論文として発表する予定である。この過程を通じて、「ゾクチェン・ニンテイク」および『ニンテイク17タントラ』に、従来とは異なる視点からアプローチし、チベットへの医学、密教の移植、およびチベットでの独自の展開について、研究を行う足場を作ることができた。

『ユトク・ニンテイク』の修行のシステムの全体像について、明らかにすることができた。その内容については、国際学術誌において、発表の予定である。(掲載、受諾済。)

『ユトク・ニンテイク』は、一般に、ニマ派に相承される「ゾクチェン・ニンテイク」のカテゴリーに含まれるとされてきた。しかし、今回の研究によって、『ユトク・ニンテイク』の実際の修行においては、「ゾクチェン・ニンテイク」において最も重視されるテクチュー、トゥゲルと呼ばれる修行が欠けており、むしろ、11世紀にチベットに移植されたカギユ派の修行体系と、類似していることが明らかになった。この点は、「ゾクチェン・ニンテイク」の概念、その形成と展開について、再検討する必要があることを意味

する。また、『ユトク・ニンティク』は、インド、中国、西アジアにまたがる文化的交流の中から生まれてきた、女神崇拜を中核とする秘教的伝統から大きな影響を受けて成立したことが明らかになった。これらの点については、すでに論文としてその一部を公表した。

ユトク・ニンティクの中核をなす、『六つのダルマ』の土台となる「微細身」の理論には、現代の神経科学および内分泌学とよく似た身体イメージが存在する。『ユトク・ニンティク』を実修するチベット人医師の聴き取り調査を通じて、この「微細身」の概念には、現代の脳科学における「神経可塑性」によく似た可塑性がそなわっているだけでなく、マントラの念誦によって、遺伝子の変化が起こり、子孫にその影響がもたらされるという考え方が含まれていることが明らかになった。これは、現代のエピジェネティクスの考え方を先取りするような思考である。この点についても、論文としてまとめ、公表した。

チベット医学においては、問診の一部として、夢が重視される。『四部医典』および『ユトク・ニンティク』の記述に基づく夢解釈のコード 色、形、時間、睡眠時の姿勢、占星術 について、聴き取り調査およびテキストの解析を通じて明らかにすることができた。その内容については、論文として公刊した。

『ユトク・ニンティク』では、忿怒相の本尊の修行によって、精神疾患を含む病の治療を行う場合がある。こうした忿怒相の本尊が、現代のブータンにおいて、国土を防衛するための国家的儀礼において、重要な役割を果たしていること、民主制への緩やかな移行過程にある、ブータンのナショナル・アイデンティティーの形成にあたって、重要な象徴的役割を演じてきたことが明らかになった。この点についても、国際学術誌で論文として発表した。

『ユトク・ニンティク』において、究極の悟りは、「虹の身体」と呼ばれている。この「虹の身体」の近年の実例、その意味、その背景にある存在論を明らかにすることができた。その概要については、一部を国際学術誌で発表した。今後は、さらにその内容を拡大し、著書として、発表する予定である。

上記の研究成果については、3年間の研究期間中、11本の論文(英文2、和文9)および3冊の単行本(共著2、監修1)を公刊することができた。こうした急速な研究の進展は、科学研究費の助成によってはじめて可能になった。記して、深く感謝します。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

永沢哲「空を飛ぶ女 後期密教におけるフェミニンなもの」、『身心変容技法研究』、第3号、2014、36-46ページ

永沢哲「虹の身体」、『身心変容技法研究』、第4号、2015、82-88ページ

永沢哲(共著者 加藤雅裕・安本義正)「倍音声明の音構造」、『身心変容技法研究』、第4号、2015、89-97ページ

T.Nagasawa, "Dancing and Fighting for an "Enlightened Society: The Dochula Druk Wangyel Festival and the Symbolic Aspects of the Second Duar War in Bhutan", *Journal of Ritual Studies*, 30(1), 2016, pp. 37-48、査読有

永沢哲「マントラと遺伝子」、『日本アーユルヴェーダ研究』、No.47、2016、7-12ページ

永沢哲「アーユルヴェーダとチベット医学」、『日本アーユルヴェーダ研究』、No.47、2016、13-18ページ

永沢哲「チベット医学の夢診断」、『日本アーユルヴェーダ研究』、No.47、2016、19-26ページ

永沢哲「エロスを超えて 仏教タントラにおける「聖なる性愛」」、『身心変容技法研究』、5号、2016、99-106ページ

永沢哲「脳科学を超えて ゾクチェン哲学と「五つの野生のアノマリー」」、『マインドボディサイエンス』、26号、2016、6-11ページ

T.Nagasawa, "The Rainbow Body", in D.Rossi & J.Oliphant (eds.), *Festschrift in Honor of Chogyal Namkhai Norbu*, Garuda Verlag, 2016, pp.92-109、

永沢哲「汝の母なる神に礼拝せよ ヒンドゥー・タントラにおける聖なる性」、『身心変容技法研究』、5号、2016、189-197ページ

[学会発表](計7件)

永沢哲「チベット医学の夢診断」、日本アーユルヴェーダ学会、2016.4.22、倉敷市民会館

永沢哲「現代社会における仏教のスペクトラム: Upaya InstituteとMind and Life Instituteが切り開いたもの」武蔵野大学仏教文化研究所、武蔵野大学看護学部、日本仏教心理学会、日本トランスパーソナル心理学/精神医学会、2014.11.1、武蔵野大学

永沢哲「脳科学を超えて」、人体科学学会、2014.11.29、京都大学

永沢哲「瞑想の脳科学」、国際伝統チベット医学会、2014.12.30、ネパール・カトマンドゥ(招待講演、"The Neuroscience of Meditation: What you can understand, and what you cannot")

永沢哲「チベット医学の夢判断(2) 五感と内臓」、『日本アーユルヴェーダ学会、神戸ポートピアホテル

永沢哲「養生、カルマムドラ、その彼岸」、『国際伝統チベット医学会、2016.4.3、エスト

ニア・タリン、(招待講演、“Self Cultivation, Karmamudra and Beyond”, 3rd International Congress of Traditional Tibetan Medicine, April 3, 2016, Tallin, Estonia)

永沢哲「マントラと遺伝子」日本アーユルヴェーダ学会、日本ヨーガ療法学会、日本健康促進医学会、2016.4.22、大宮ソニックシティ

〔図書〕(計 3件)

永沢哲他(黒木幹夫ほか編)『身体の知—湯浅哲学の継承と展開』(ピング・ネット・プレス、2015年)253ページ。「超・身体論—光の存在論へ—」(212~229ページ)

永沢哲他(鎌田東二編)『スピリチュアリティと宗教』2016、BNP、277ページ(「惑星的思想 22世紀文明における霊性」)、121-153ページ)

永沢哲(監修)『チベット仏教』、サンガ、2016、764ページ

永沢哲「序」、14-15ページ

永沢哲+藤田一照「アメリカで見たチベット仏教の現在形」、18-39ページ

永沢哲「チベットの仏教と文化の生きた姿」、40-85ページ

永沢哲「チベット仏教概説」、86-89ページ

永沢哲他空説、126-129ページ

永沢哲「具足戒、大乘戒、三昧耶戒」、130-136ページ

永沢哲「「解脱の道」マハームドラと、「方便の道」ナーローパの六法」、146-151ページ

永沢哲「ゾクチェンとは何か」、152-159ページ

永沢哲「チベット密教は仏教なのか?」、160-165ページ

永沢哲「顕教の瞑想 菩提心の修習と菩薩行」、166-175ページ

永沢哲「チュー「我執を断つ」」、190-195ページ

永沢哲「長寿の修行」、196-197ページ

永沢哲「チベットの死の教え」、198-206ページ

永沢哲「中有において、恐怖から救う祈り(『シトー・ゴンパ・ランドル』から)」、207-211ページ

永沢哲「光の哲学」、212-221ページ

永沢哲「骨の宝石」、227-233ページ

「チベット仏教概説」、「他空説」、「ニンマ派概説」

永沢哲(訳・解説)「仏子の三十七の修行、242-258ページ

永沢哲「チャムとガル 仏教瞑想とダンス」、303-308ページ

永沢哲「自然への負債をあがなう民衆の儀礼」、317-319ページ

永沢哲「チベット医学と仏教」、327-334ページ

永沢哲「歴史に見るチベット仏教の特徴」、368-372ページ

永沢哲「チベット仏教の世界への広がり概説」、382-387ページ

永沢哲「浄土としてのチベット」、418-424ページ

永沢哲「中世チベットの偉大な諷狂行者」、425-431ページ

永沢哲、「ブータンの仏教教育とGNH(国民総幸福)」、451-461ページ

永沢哲「ニンマ派概説」、480-496ページ

永沢哲「ニンマ派の代表的な祖師」、497-500ページ

永沢哲「カギユ派の代表的な祖師」、507-512ページ

長田幸康、永沢哲、「ゲルク派の代表的な祖師」、547-552ページ

永沢哲「その他系譜」、553-554ページ

永沢哲「ボン教と仏教」、555-563ページ

永沢哲「シュクセブ・ジェツンマ」、584-586ページ

永沢哲「ジグデル・イエシエ・ドルジェ」、587-589ページ

永沢哲「チャダル・サンギエ・ドルジェ」、592-598ページ

永沢哲「ドドゥブチェン・ジグメ・ティンレー・パルワル」、599ページ

永沢哲「ペマ・ノルブ・リンポチェ」、600-601ページ

永沢哲「ケンポ・ジグメ・ブンツォク」、602-603ページ

永沢哲「チューギエル・ナムカイ・ノルブ」、604-605ページ

永沢哲「ソギャル・リンポチェ」、606-607ページ

永沢哲「ナムケーニンポ・リンポチェ」、608ページ

永沢哲「カルマパ・ランジュン・リクペ・ドルジェ」、609-610ページ

永沢哲「ジェ・ゲンドゥン・リンチェン」、611-612ページ

永沢哲ド「ウクチェン・リンポチェ十二世」、616-617ページ

永沢哲「ヨンゲー・ミンギユル・ドルジェ」、618-619ページ

永沢哲「チョギャム・トゥルンパ」、620-622ページ

永沢哲「ガンデン・ティパ・ロブサン・ニマ」、641-642ページ

永沢哲「ワンドウ・リンポチェ」、647-648ページ

永沢哲「ヨンズィン・デンズィン・ナムダク・リンポチェ」、649-650ページ

永沢哲「シャルザ・タシ・ギェルツェン」、651ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 永澤 哲 (NAGASAWA Tetsu)
京都文教大学・総合社会学
部・准教授

研究者番号： 40388210

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()